

# お客様各位 元氣通信

## 言葉の力

、新年あけましておめでとうございます。サーマルタンクの新洋技研の大辻です。今年も健やかで好事がたくさん皆様におとずれますように！

さて、今回の題名は「**言葉の力**」。誰しもが一度や二度、自分の発した言葉が本当になった、そして、明るい気分ときは**いい事**が、暗い気分ときは**好くない事**が起きやすいという経験を持っているのではないのでしょうか？

私も次から次へと難問ばかりが降りかかり、一体いつになったらこの状況から抜け出せるのだろうか？と暗澹たる思いでいた時期がありました。こういう時は思考も言葉もマイナスだらけになっちゃいますね。で、また良くないことが起きてしまう。まさにデビルスパイラル状態！

けれど、ある方の「大丈夫だよ、必ず良くなる！」の言葉に支えられ、何とか気持ちを奮い立たせて難問に向き合い少しづつですが、クリアしてることができました。本当に言葉の力はすごいと思いました。（まだまだですが、その当時よりはよっぽどマシかな・・・）

振り返ってみるに「いいこともそうでないことも結局は自分が引き寄せているのかなあ」と。よく**いい事**が続くと「そんなに続くわけがない」とか「何か**好くない事**が起るのではないか」と考えがちなのですが、そういうときは「もつと**好くなる**」と、逆に**そうでない**ときは「これから**好くなる**」と、ちよつと**能天気**なくらいに思い、それを口に出したほうがどうも**良い**ようです。

などと言っている私も実際は日々不安との闘いで、ついつい**好くない言葉**を発してしまうことがありますが、その度に思い返しているし**だい**です。

今年の通信に同封させていただく3ヶ月カレンダーは「心に残る名言集」です。好き思念、好き言葉を  
持つて参りましょう。本年も何卒よろしく**お願い**申し上げます。

## 日本の野鳥シリーズ

### やはり猛禽尾白鷺

技術営業部 佐藤 弘

冬、カモなどの訪れと共に、それを追ってワシ・タカなどの猛禽が北からやってくる。大形のオジロワシもそんな一種だ。これ迄の本種の印象は、広い水面を見渡す高木の枝で日がなボケーツとしている様に見えて、実は悠然と辺りを見下ろしてどれを狙うか、弱ったカモはいないか一羽一羽の挙動を観察中と言ったところだ。

本種の動きは機敏とか速いなどの表現とは程遠い。だから、スピードでは敵わないハヤブサにパンクするカモ達も、本種に対しては余裕充分に避難する。それに、冬場の鯉は水底に潜んでいる。あいつ何を食って生きているのか、おおかたカラス追っ払って餌ヲ横取りしているんじゃないの？などと仲間達と言いたい放題の、ワシに聞こえたら襲われかねない悪口雑言をほざいていた。

ある日の勉強会で様々な調査研究の発表後、ビデオが披露された。これがたいそう衝撃的な場面なので、心優しく心臓があまり丈夫でない方は心してこの先をお読み頂きたい。

映像は、本種が水面近くで意外と器用に停空飛翔（空中の一点に止まる事＝ホバリング）するところから始まった。息継ぎに水面に浮上したのはマガモの雄。潜水ガモではないが、ハヤブサの急襲をかわす時には潜ることもある。真上で待ち構えていたワシは、カモを鷲掴みに押えこみ水中に沈めた。ワシはいつから水鳥になった？そんな状態が暫く続いた。重くなったカモを掴んだワシは水面から飛立せず、バタフライ泳法で根気よく水を掻き枯れアシの陰に獲物を運んだ。映像はここで終り、見終わって暫く会場は静まりかえっていた。あのマガモは被弾して弱っていたと思う。健全なら飛んで逃げる。

この凄惨な野生の営みを残酷とは思わない。縄文人レベルの原始狩猟本能を満たす愉しみにやる、釣りと言う（釣った魚は食うから無益ではないにしろ）殺生を止めない私が残酷であって、ハンターと五十歩百歩、いや同列だろう。それにしても、絶滅危惧種のあのワシが鉛の散弾を呑み込んでいないか気掛かりだ。

## 酒蔵さんとの長ーいおつきあい

### 第15話

取締役会長 大辻 英郎

富士は日本一の山。上越新幹線で大宮辺りからの遠望。きりっと聳える姿にも優しさを湛えている富士山。東海道新幹線三島の辺りでは雲の中、残念と思っていたら富士駅の手前で六合目から頂上まで真っ白に輝いていた。日本一であるからこそ尊く美しい。その雄姿に憧れを感じればし目を閉じていました。富士山のイメージを日本の文化に感じている人も多いのではないかと思います。

日本食がひろがっている。それに伴って日本酒も飲まれている。輸出量がこのところ急に伸びていることは関係者の努力が実ってきたと思うが、やはり美味しい日本酒造りを行なってきたから時を得て伸びている事が最大の要素と思うのがいかがでしょうか。

日本一の酒造りを目指しておれば、もっともっと増えていくと思います。醸造の技術が世界を救う日もやがて来るのではないか。

正道を歩んでいけば、必ず良き日を迎えると思っております。

当社も日本一の酒づくりを目指しておられる皆さんの為に、バックアップ日本一を夢んでいます。

良き年であります様に心から祈念申し上げます。

次号へつづく

## 一代目 阿部 (新潟市)

昨年7月に新潟市の繁華街「古町」にオープンした「一代目 阿部」月々のコースでは一品ごとに合うお酒を提供してくれます。そして最後は一皿に盛った幾種類かの酒の肴で気に入ったお酒をゆっくりと楽しむことができます。

女性客も多く、お店の料理人たちと気さくに酒談義などしながら楽しむ姿が見られます。料理には定評のあるお店でもお酒は、となると、ただ有名どころの大吟醸クラスだけが置いてあるだけだったり、殆ど選べず（特に燗酒）保存状態も良くなく飲んで残念な思いをすることが多いので、こんな感じのお店がもっと増えて欲しいなと願っています。



## 週の始まりは何曜日?

モツセイ

生産資材主任 島貫 修一

週の始まりは日曜日か月曜日かで友人達と論争になった。論争といっても柿を食べながらのおしゃべりだが、事の発端は私が来年のカレンダーを持ち込み、それが月曜日から始まる様式だったことから。日曜日派を代表するグレッチェンと元校長先生の意見は、普通のカレンダーは日曜始まりでそれが習慣になっているのだから、スケジュール手帳が月曜始まりだと混乱して間違えてしまうとのこと。確かに英語では曜日を数えるときは日曜日からだ。

それに対して月曜日派は、月曜朝に目が覚めたとき週が始まると感じるのが自然だし、5日間働いて2日間休む生活のリズムに合っていると主張。更にドイツに行ったとき向こうのカレンダーは月曜始まりだったとか、ロシアも同じだったという体験話しも出て来た。私自身も月曜日派でカレンダーは月曜始まりだけ買っているし（もらい物は別）、争い?の原因となったカレンダーはフランス製で、フランス語では曜日は月曜日から数える。

わいわい言い合った結果自分の好きな方を選べば良いとの結論になったが、接客業で土日は仕事で休めない人の場合は、火曜始まりや水曜始まりになるかもしれない。